

「心のケア重要に」

被災地支援

AMDA 2人会見

東日本大震災の発生から1年が過ぎたのを機に、岡山市の国際医療NGO「AMDA」の復興支援活動に加わっている岩手県大槌町在住の2人が14日、市内で会見した。被災地の現状を報告し、「元氣な人が、心が折れている人たちを支え続けなければ」と語った。

AMDAは昨年12月、鍼灸の施術室などを備えた健康サポートセンターを現地に設置した。会見したのはそのスタッフである地元出身の元持幸子さんと鍼灸師の佐々木賀奈子さん。

元持さんは仙台市内で被

災し、AMDAと合流して大槌町に入った。センター

では交流イベントを企画するなど、利用者を側面から支えるよう心がけている。

「待合室を兼ねたスペースで料理を習ったり、手芸をしたり。互いに話し、笑う時間が貴重だと思う」

佐々木さんはAMDAの医療チームとともに、住民の健康維持に努めてきた。

「避難所から仮設住宅に移ってプライバシーが確保された半面、心のケアの必要性が増している」と話す。

復興の道筋が見えにくいことが、人々の心にのしかかっていると佐々木さんは言う。「希望が、生きる支えがほしい。それが皆の一番の願い」。時に言葉を詰まらせた。

(柏崎敏)